

【開催決定のお知らせ】2023年夏・大阪市立自然史博物館にて開催

日本初公開「鎧竜“ズール”」の全身実物化石がついに大阪へ！

特別展「恐竜博2023」

会期／2023年7月7日（金）～9月24日（日）

会場／大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

大阪市立自然史博物館 ネイチャーホールにて、2023年7月7日（金）～9月24日（日）の期間、特別展「恐竜博2023」を開催いたします。

本展では、鎧竜(よろいりゅう)史上最高の完全度と謳われる**ズール・クルリヴァスタトル**の実物化石を中心に、身を守るためにトゲやプレートを進化させた装盾類(そうじゅんるい) (剣竜と鎧竜の総称) の進化について解説しながら、「攻・守」をキーワードに恐竜たちの進化を読み解きます。

「守」を代表する恐竜として取り上げるのが、アンキロサウルス類の鎧竜・ズールです。その実物化石は**カナダ・ロイヤルオンタリオ博物館 (ROM) 以外では初公開***となります。ズールは、頭骨から尾の棍棒(こんぼう)まで揃って、アメリカの約7600万年前の地層から発見されました。アンキロサウルス類では初の事例です。全長約6mもあり、アンキロサウルスと肩を並べる最大級の鎧竜です。本展では、鎧竜類に特徴的な頭部から胴体を覆う装甲、尾の棍棒までを展示します。

「攻」を代表する恐竜としては、ズールと同じ時代に生きた**ゴルゴサウルス** (ティラノサウルス類) の全身復元骨格もズールの全身復元骨格と対照するように展示。当時の恐竜たちの「攻・守」を臨場感ある展示で体感いただけます。

また、2020年に国立科学博物館とアルゼンチン自然科学博物館との共同調査チームが発掘し、2022年に新種と発表された、南半球の頂点的存在だったといわれる肉食恐竜**マイブ・マクロソックス**を、白亜紀最末期に北半球の生態系のトップにいた**ティラノサウルス・レックス**などと対比させながら紹介。「攻・守」を切り口に、最前線の研究や、恐竜絶滅の謎に迫ります。

*先だって東京会場（3月14日～6月18日）で公開されています



特別展「恐竜博2023」みどころ

「攻・守」が進化させた恐竜たち！

今からおよそ2億3000万年前の中生代三畳紀、最初期の恐竜は全長1mくらいの肉食だったと考えられています。その中から豊富な資源である植物を主食とする恐竜が出現し、恐竜の形や大きさに多様性が生まれました。本展では、究極の防御のためにトゲやプレートを進化させた装盾類の進化、そのような進化に対抗しなくてはならなかったさまざまな肉食恐竜たちの進化を比較しながら、恐竜たちの「攻・守」をキーワードに、恐竜学の最前線を解説します！

大迫力！
2体の全身復元骨格を
対照するように展示



[2]

ズール（左）とゴルゴサウルス（右）の対峙シーンを再現した全身復元骨格（東京会場 撮影：山本倫子）

ズール・クルリヴァスタトル (*Zuul crurivastator*)
属名の由来：映画『ゴーストバスターズ』に登場する門の神「ズール」。〈種小名〉脛の破壊者

分類：鳥盤類 鎧竜類 アンキロサウルス類

時代：後期白亜紀

産出地：アメリカ・モンタナ州

推定全長：6m

ゴルゴサウルス・リブラトゥス
(*Gorgosaurus libratus*)

属名の由来：恐ろしいトゲ

分類：竜盤類 獣脚類 ティラノサウルス類

時代：後期白亜紀

産出地：カナダ・アルバータ州

推定全長：9m

鎧竜屈指の完全度を誇る「ズール」全身実物化石が日本初上陸！

肉食恐竜から身を守るためのトゲトゲした骨質のウロコからなる装甲、肉食恐竜の骨を破壊するような強力な棍棒をもつ尾が特徴。「クルリ」はラテン語で脛(すね)、「ヴァスタトル」は破壊者を意味しており、長さ3mもある尾の先にある推定7kgの棍棒を振りまわすと、ゴルゴサウルスの脛をも破壊する威力があったと考えられています。

1個体で頭骨から尾の棍棒まで発見されたのはアンキロサウルス類で初めて。その完全度、保存状態の良さから、鎧竜の進化を解明する大きな手がかりのひとつとなる恐竜です。頭骨から尾の棍棒までを、生きていた時の姿のように観覧できる展示手法に世界で初めて取り組みます。



[3] ズール・クルリヴァスタトルの復元画
(© Royal Ontario Museum)



[4] ズール・クルリヴァスタトルの胴体部分(実物化石)
©Royal Ontario Museum photographed by Paul Eekhoff

【世界初公開】ティラノサウルス「タイソン」最重要級の全身骨格を展示！

アメリカ・モンタナ州に分布するヘルリーク層から発見されたティラノサウルス・レックス「タイソン」。頭部の一部(前関節骨)や、胸の叉骨、前あしの上腕骨、脊椎骨、腹肋骨、後ろあしの趾骨など、ティラノサウルスの中でも発見例が少ない部位の実物化石を使って、組み立てられた全身骨格を世界初公開します。

6,600万年前から時が止まっていたかのような良好な保存状態で、骨表面の形態まで詳細に観察することができます。まだ研究中の新しい標本ですが、「タイソン」よりも体の小さいティラノサウルスによってつけられた可能性のある、上腕骨の咬み痕などが確認できる貴重な個体です。ティラノサウルスの新標本の実物化石を観察できるのは、日本では大変貴重な機会となります。このチャンスをお見逃しなきよう！

「タイソン」の全身骨格(東京会場) [5]



ティラノサウルス・レックス (*Tyrannosaurus rex*)

属名の由来：暴君トカゲ

分類：竜盤類 獣脚類 テタヌラ類 コエルロサウルス類 ティラノサウルス科

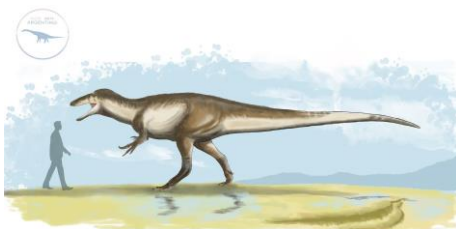
時代：後期白亜紀

産出地：アメリカ・モンタナ州

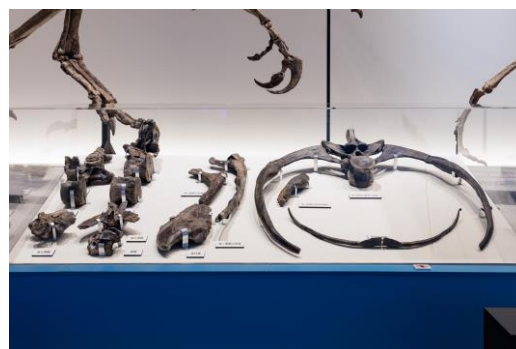
推定全長：11.2m

南半球の王者 新種の肉食恐竜、マイプ・マクロソラックスを世界初公開！

本展監修の真鍋真(国立科学博物館 副館長)らの調査隊によって、2020年にアルゼンチンで発掘され、2022年に新種として命名された肉食恐竜。推定全長約10mはメガラプトル類の中で最大級であり、白亜紀最末期の種だと考えられるマイプ。この発見により、北半球の王者ティラノサウルス類に対して、南半球ではその座にメガラプトル類がいた可能性が高くなりました。



[6] マイプ・マクロソラックスの復元画
(画：Agustin Ozain)



[7] マイプ・マクロソラックスの実物化石
(東京会場 撮影：山本倫子)

マイプ・マクロソラックス (*Maip macrothorax*)

属名の由来：アルゼンチンに伝わる冷たい風で人間を遭難させる悪霊の名前

分類：竜盤類 獣脚類 メガラプトル類

時代：後期白亜紀

産出地：アルゼンチン・サンタクルス州

推定全長：約10m

カナダ最大の総合博物館 ロイヤルオンタリオ博物館について

1914年に開館し、北米の文化施設のトップ10に入る、カナダで最大かつ最も総合的な博物館です。1300万点を超えるトップクラスの美術品や自然史標本が収蔵されており、40のギャラリーや展示スペースで紹介されています。同館は、恐竜をはじめ化石発掘の野外調査を実施する屈指の研究機関として、またコレクションに基づく博物館研究の国際的リーダーとして、芸術、文化、自然界に対する我々の理解を深めるために極めて重要な役割を果たしています。100年以上にわたり行われている古生物学の野外調査で世界的に重要な恐竜やその他の化石のコレクションを収集、収蔵し、その成果は世界最高水準の古生物学ギャラリーで見ることができます。



【8】 ロイヤルオンタリオ博物館外観
©Royal Ontario Museum

開催概要

【大阪会場】

展覧会名：特別展「恐竜博2023」 | THE DINOSAUR EXPO2023

会 期：2023年7月7日（金）～9月24日（日）

休 館 日：月曜日（祝休日の場合はその翌日。ただし、8月7日、14日は開館）

開館時間：午前9時30分～午後5時 ※入場は午後4時30分まで

会 場：大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

主 催：大阪市立自然史博物館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿、朝日新聞社

協 賛：INPEX、Gakken、DNP大日本印刷

学術協力：ロイヤルオンタリオ博物館

展覧会公式サイト：<https://dino2023.exhibit.jp/>

公式Twitter：dinoexpo2023

公式Instagram：dinoexpo2023



* 会期などは変更になる場合がございます。

* 入場料、入場方法等の詳細は決定次第、公式サイトでお知らせします

【東京会場】

会 期：2023年3月14日（火）～6月18日（日）

会 場：国立科学博物館（東京・上野公園）

【報道に関するお問合せ】

特別展「恐竜博2023」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL / dino2023-osaka@nenelaco.com

TEL / 06-6225-7885

FAX / 06-7635-7587

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

[広報用画像申込書]

[1] ~ [8] 広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は、下記よりお申込みください。

[申込フォーム]

<https://forms.gle/T3oSYA4junLuGrZZA>

※入力難しい場合は、本書を広報事務局までお送りください。



【広報用画像使用に関する注意事項】

- 広報画像のご使用は、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。それ以外のご使用はご遠慮ください。
また、二次使用や展覧会終了後の使用はできません。
- **展覧会名、会期、会場名、標本名・所蔵先・クレジット表記を必ず掲載してください。**
- 本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合は個別に申請くださいますようお願いいたします。
- 広報画像は、全図で使用してください。部分使用や資料に文字や他のイメージを重ねることはできません。
- 下記以外の広報用画像を希望される方は、広報事務局までお問い合わせください。
- 読者様プレゼント用招待券の提供は、**広報用画像1点以上を掲載の上、本展を紹介いただける場合に限らせていただきます。**
- 掲載紙・誌・ビデオ・DVD等を、広報事務局までご送付ください。WEBサイトの場合は、掲載時にお知らせください。
- 掲載前に、校正原稿をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

【広報画像・キャプション一覧】ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧
1□	メインビジュアル ※クレジットなし
2□	ズール（左）とゴルゴサウルス（右）の対峙シーンを再現した全身復元骨格（東京会場 撮影：山本倫子）
3□	ズール・クルリヴァスタルの復元画（© Royal Ontario Museum）
4□	ズール・クルリヴァスタルの胴体部分（実物化石） ©Royal Ontario Museum photographed by Paul Eekhoff
5□	「タイソン」の全身骨格（東京会場）
6□	マイブ・マクロソラクスの復元画（画：Agustin Ozain）
7□	マイブ・マクロソラクスの実物化石（東京会場 撮影：山本倫子）
8□	ロイヤルオンタリオ博物館外観 ©Royal Ontario Museum

貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／	月号（ 月 日号）／ 月 日発売予定 □WEBへの転載あり
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／□希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須	
お送り先／〒	

【報道に関するお問合せ】

特別展「恐竜博2023」広報事務局（ネネラコ内）

E-MAIL / dino2023-osaka@nenelaco.com

TEL / 06-6225-7885

FAX / 06-7635-7587

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル